

令和5年度 第2回 AIによる下水処理場運転操作 デジタルトランスフォーメーション(DX) 検討会 議事概要(案)

1. 日時 令和5年12月8日(金) 10:00~12:00
2. 場所 (公財)日本下水道新技術機構 会議室およびweb会議

【議事概要】

事務局から配布資料について説明が行われた後、委員の意見を伺った。

委員からの主な意見は以下のとおりである。

これまでの検討会における議論を踏まえ、環境整備のあり方について、令和5年度末に提言をとりまとめることとなった。

- 報告内容の各事例がAIガイダンスか、AIによる自動運転かを区別する必要がある。提言に含まれる内容については、それぞれの制御内容に応じた整理をしていただきたい。
- AIシステムのバックアップ機能について、AIシステムからの出力値に関するアラームだけでなく、異常な流入水量などAIシステムへの異常な入力値に対するアラームを設けることも考えられることから、整理する際に追加することが望ましい。
- AI出力根拠の見える化について、見える化の取組は重要であると考え。しかし、判断プロセスの見える化は難しいと思われる。熟練職員がAIの判断プロセスを推測することは可能であるため、このような技術継承を行っていくことは重要である。このため、具体的事例を整理して頂きたい。
- AI構築に必要なデータとして、日報などが挙げられているが、日報や月報データは現状でもエクセルデータなどで容易に取り出すことが可能である。AI構築には計装データやログデータなど、日報よりも細かいデータが必要だと思われる。必要なデータの種類や汎用プロトコルでの取り出しについて、整理して頂きたい。
- ベンダーロックイン解消にあたって建設費や維持管理費として、ベンダーから高額な金額を請求される可能性がある。AIの導入に向けてコストの考え方は重要である。また、ベンダーロックイン解消が実現した後、複数のベンダー間で通信の不具合が生じた場合に不具合原因の解明が難しくなると考えられる。そういった課題を整理することも重要である。

以上